

7. 女性に対する暴力について

(1) 夫婦間での暴力に対する考え

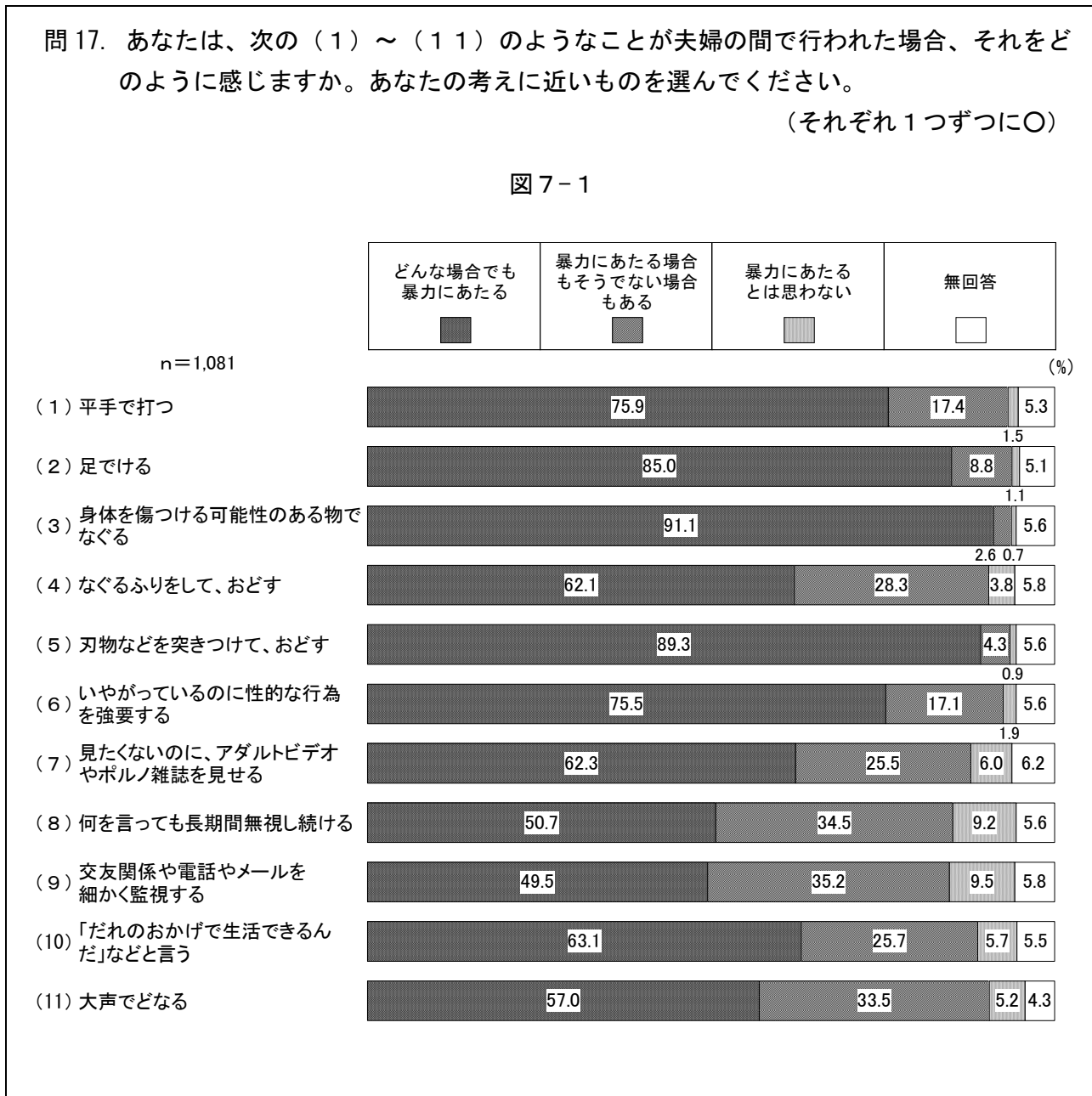
◇「どんな場合でも暴力にあたる」は“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”で91.1%

◇「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」は“交友関係や電話やメールを細かく監視する”で35.2%

問17. あなたは、次の(1)～(11)のようなことが夫婦の間で行われた場合、それをどのように感じますか。あなたの考えに近いものを選んでください。

(それぞれ1つずつに○)

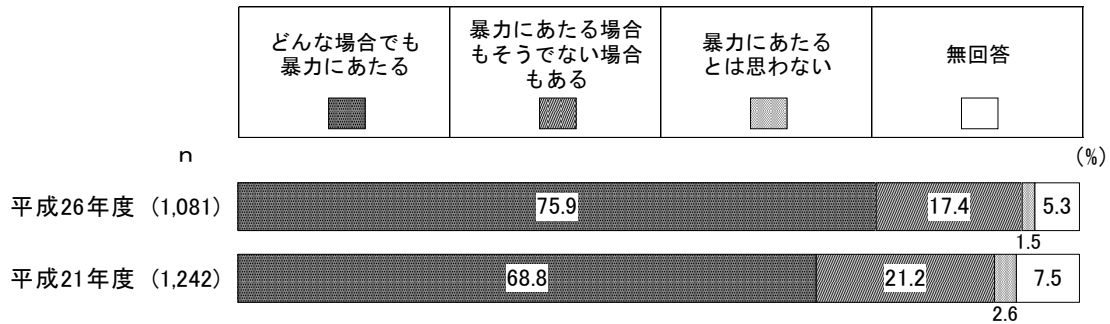
図7-1



夫婦間での暴力に対する考えを聞いたところ、「どんな場合でも暴力にあたる」は“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”で91.1%と最も高く、次いで、“刃物などを突きつけて、おどす”(89.3%)、“足でける”(85.0%)、“平手で打つ”(75.9%)などの順となっている。また、「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」は“交友関係や電話やメールを細かく監視する”で35.2%と最も高く、次いで、“何を言っても長期間無視し続ける”(34.5%)、“大声でどなる”(33.5%)などの順となっている。一方、「暴力にあたるとは思わない」はすべての項目で1割未満となっている。(図7-1)

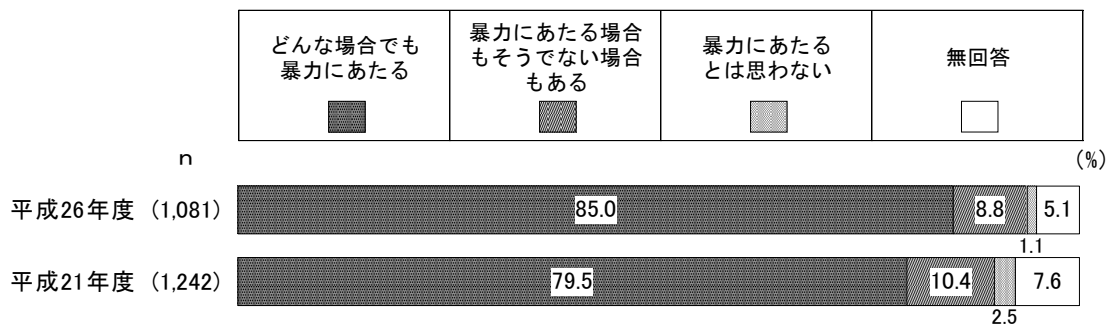
“平手で打つ”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より7.1ポイント増加、「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」は平成21年度調査より3.8ポイント減少している。(図7-2)

図7-2 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)【(1)平手で打つ】



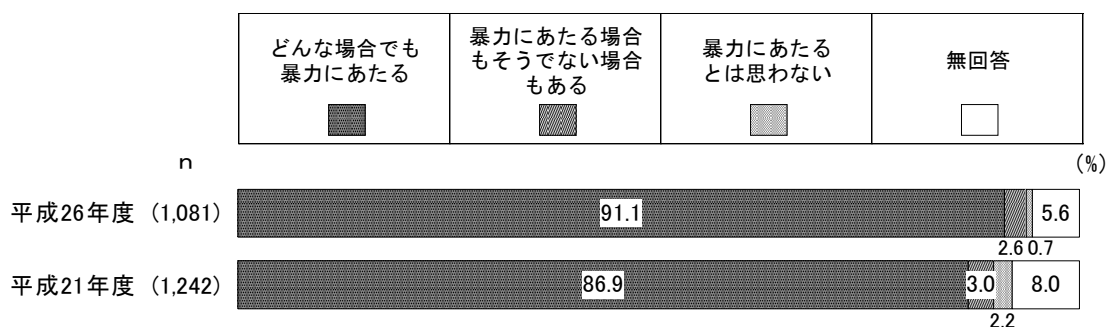
“足でける”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より5.5ポイント増加している。(図7-3)

図7-3 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)【(2)足でける】



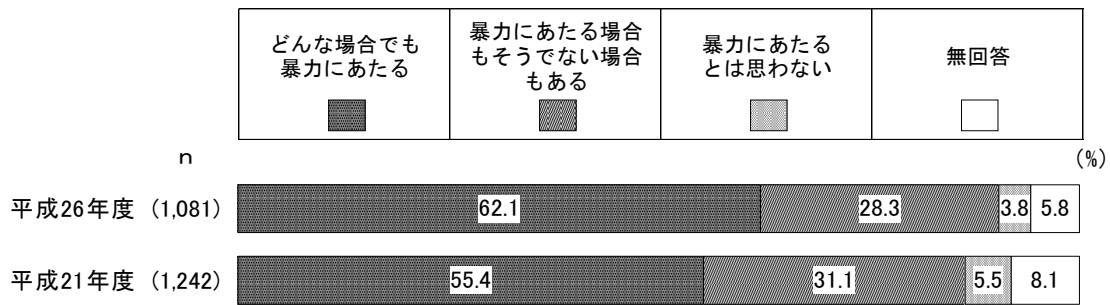
“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より4.2ポイント増加している。(図7-4)

図7-4 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)【(3)身体を傷つける可能性のある物でなぐる】



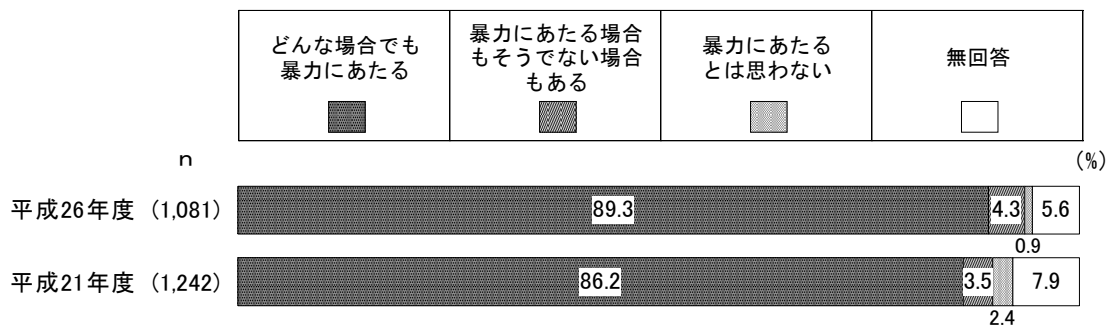
“なぐるふりをして、おどす”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より6.7ポイント増加している。(図7-5)

図7-5 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)【(4) なぐるふりをして、おどす】



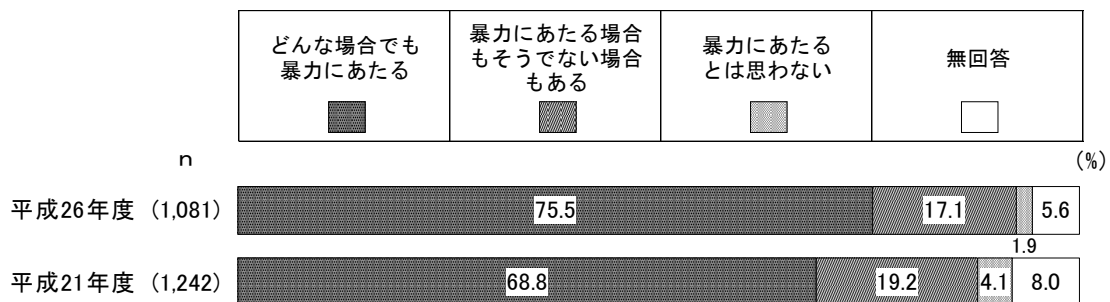
“刃物などを突きつけて、おどす”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より3.1ポイント増加している。(図7-6)

図7-6 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)【(5) 刃物などを突きつけて、おどす】



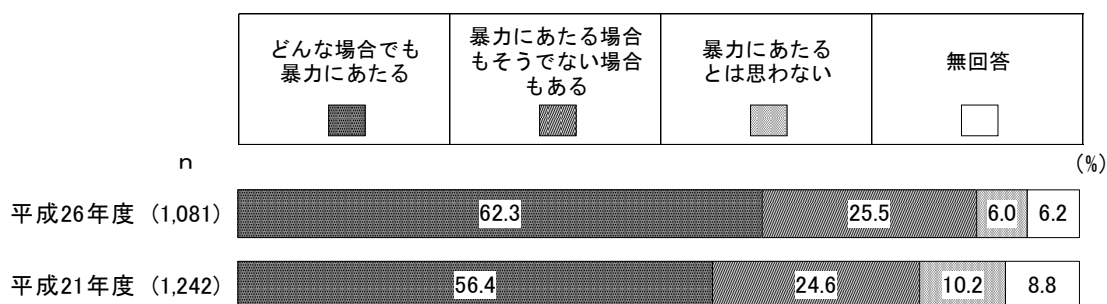
“いやがっているのに性的な行為を強要する”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より6.7ポイント増加している。(図7-7)

図7-7 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)【(6) いやがっているのに性的な行為を強要する】



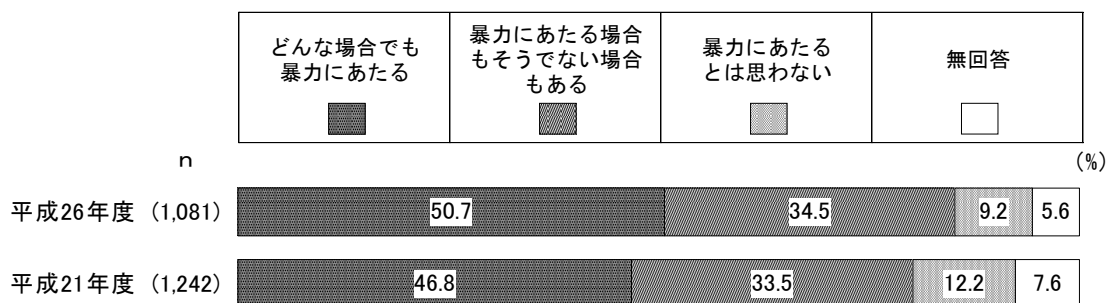
“見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より5.9ポイント増加、「暴力にあたるとは思わない」は平成21年度調査より4.2ポイント減少している。(図7-8)

図7-8 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)
【(7) 見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる】



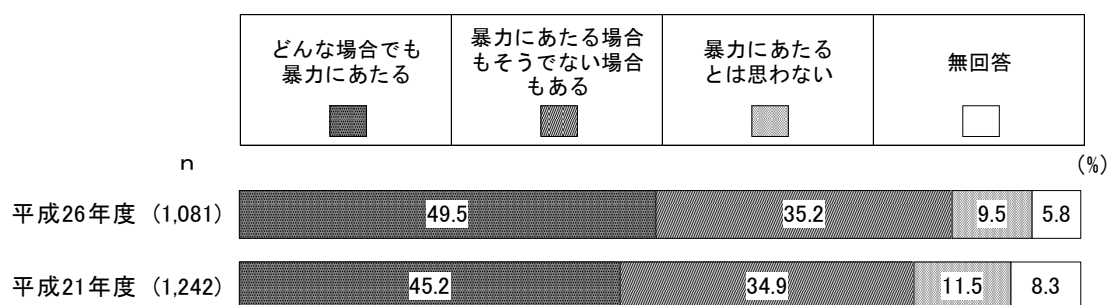
“何を言っても長期間無視し続ける”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より3.9ポイント増加、「暴力にあたるとは思わない」は平成21年度調査より3.0ポイント減少している。(図7-9)

図7-9 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)【(8) 何を言っても長期間無視し続ける】



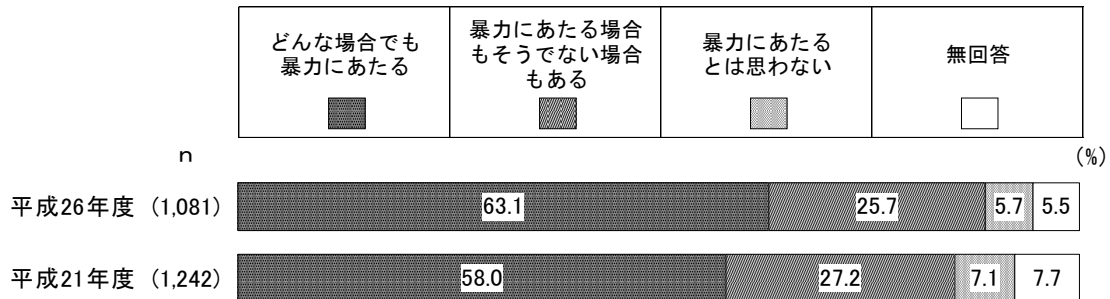
“交友関係や電話やメールを細かく監視する”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より4.3ポイント増加している。(図7-10)

図7-10 夫婦間での暴力に対する考え(経年比較)【(9) 交友関係や電話やメールを細かく監視する】



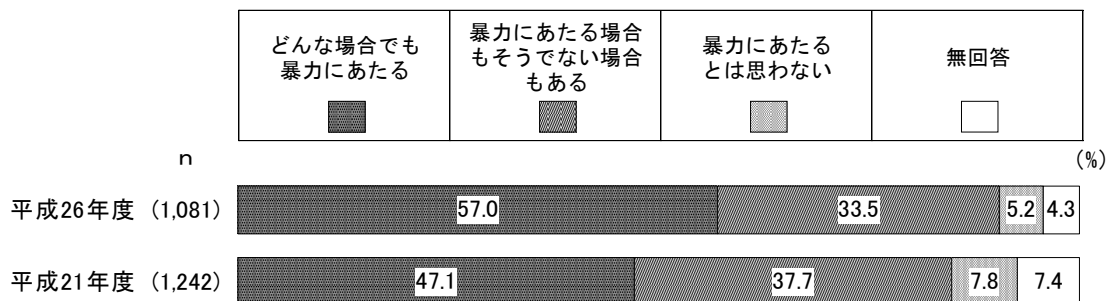
“「だれのおかげで生活できるんだ」などと言う”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より5.1ポイント増加している。(図7-11)

図7-11 夫婦間での暴力に対する考え（経年比較）
【(10)「だれのおかげで生活できるんだ」などと言う】



“大声でどなる”について経年比較をみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は平成21年度調査より9.9ポイント増加、「暴力にあたる場合もそうでない場合もある」は平成21年度調査より4.2ポイント減少している。(図7-12)

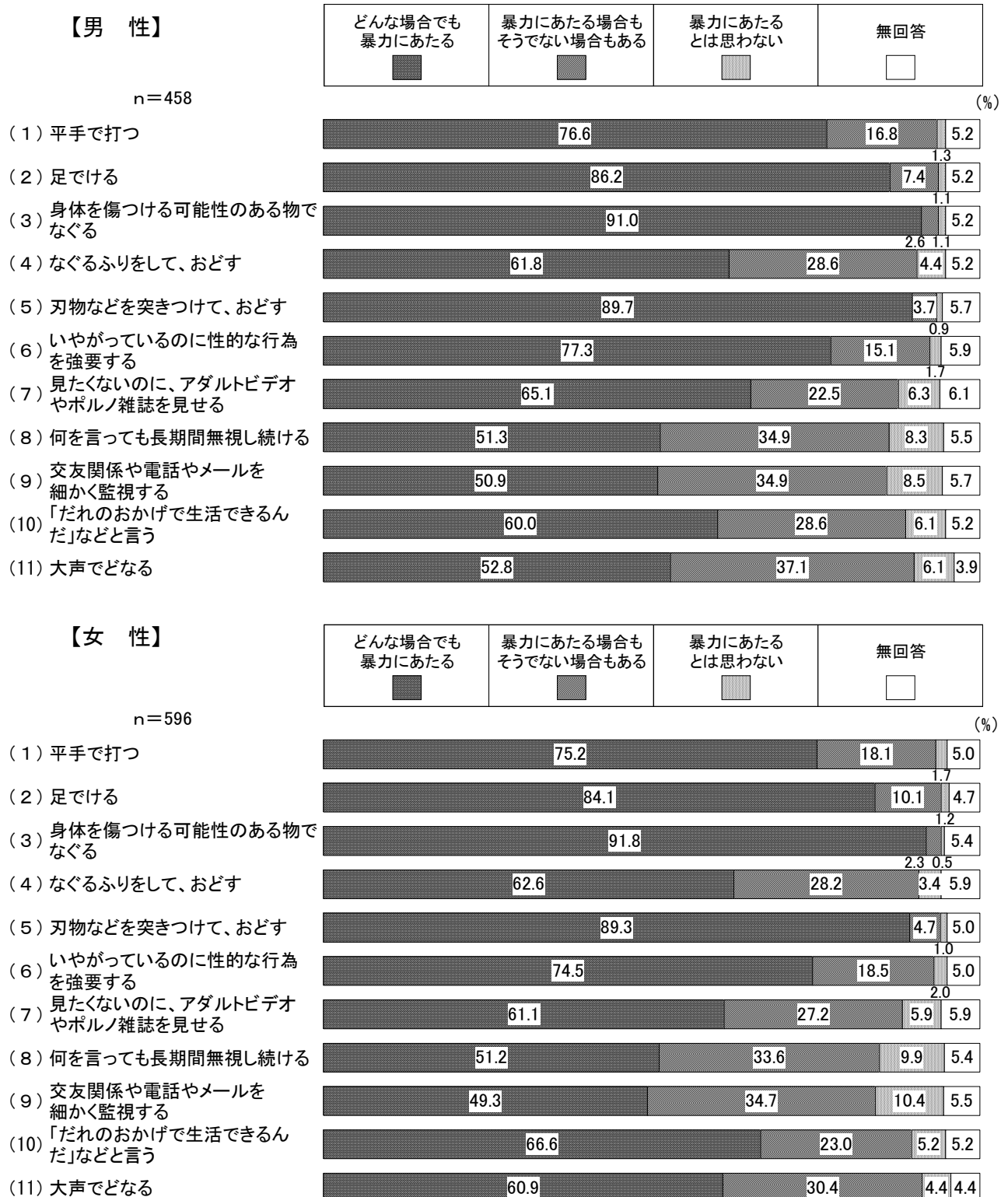
図7-12 夫婦間での暴力に対する考え（経年比較）【(11) 大声でどなる】



性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は 11 項目中 7 項目で男性が女性より高く、「見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる」では男性（65.1%）が女性（61.1%）より 4.0 ポイント高くなっている。一方、女性が男性より高くなっている残りの 4 項目は、「大声でどなる」では女性（60.9%）が男性（52.8%）より 8.1 ポイント、「だれのおかげで生活できるんだ」などと言う」では女性（66.6%）が男性（60.0%）より 6.6 ポイント、それぞれ高くなっている。

(図 7-13)

図 7-13 夫婦間での暴力に対する考え（性別）



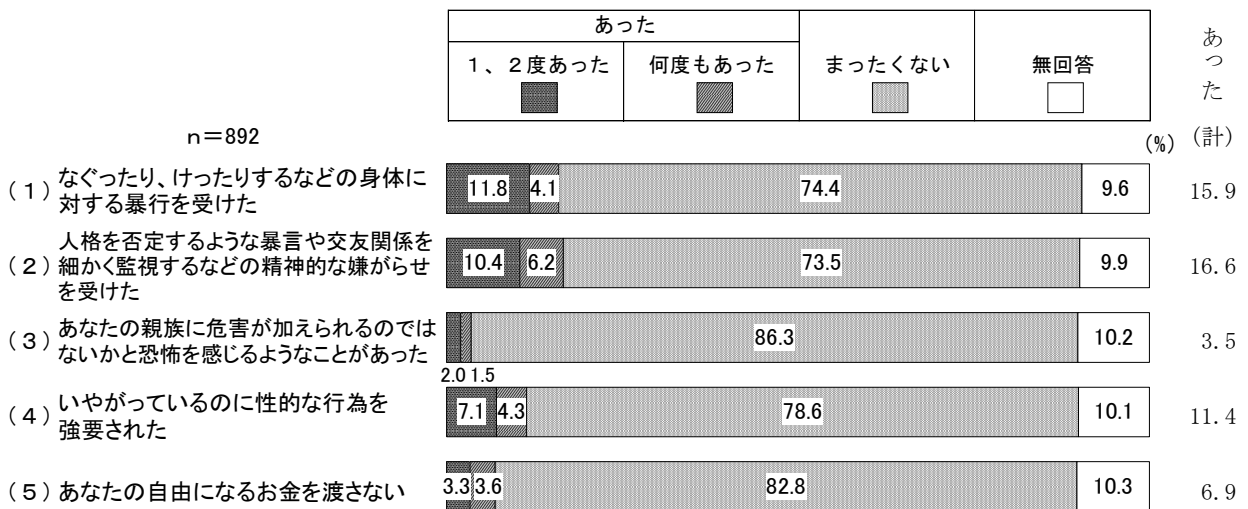
(2) 配偶者から暴力を受けた経験

◇「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『あった(計)』は“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた”で16.6%

(配偶者がいる方に。ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者(離別・死別した相手、事実婚を解消した相手)も含まれます。)

問18. あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次の(1)～(5)のようなことをされたことがありますか。(それぞれ1つずつに○)

図7-14

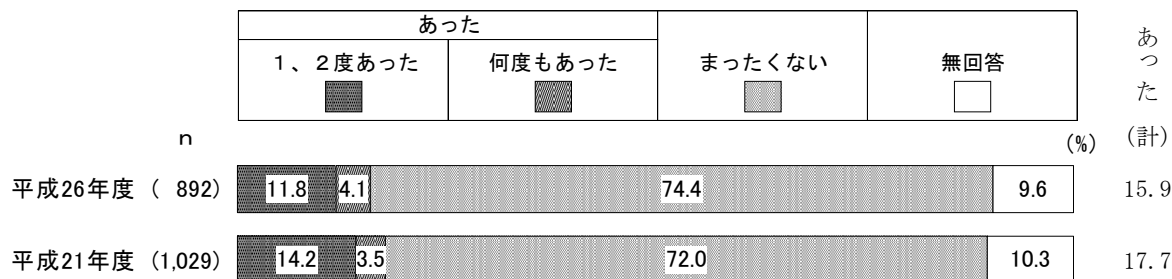


配偶者がいる方(892人)に、配偶者から暴力を受けた経験を聞いたところ、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた『あった(計)』は“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた”で16.6%と最も高く、次いで、“なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた”(15.9%)、“いやがっているのに性的な行為を強要された”(11.4%)などの順となっている。(図7-14)

“なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた”について経年比較をみると、平成21年度調査とほぼ同様の傾向となっている。(図7-15)

図7-15 配偶者から暴力を受けた経験(経年比較)

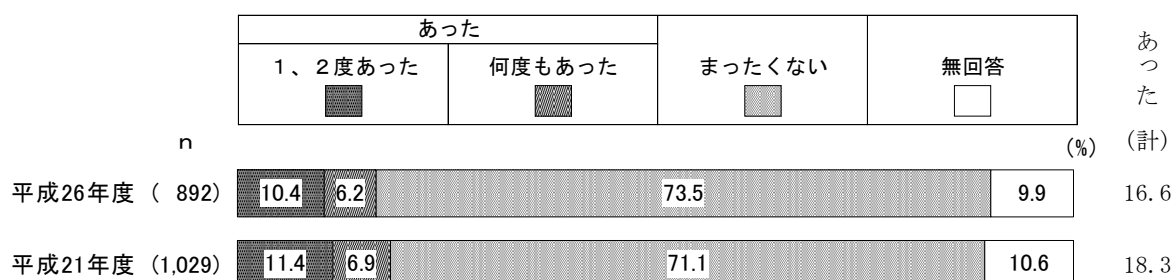
【(1) なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた】



“人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた”について経年比較をみると、平成21年度調査とほぼ同様の傾向となっている。(図7-16)

図7-16 配偶者から暴力を受けた経験(経年比較)

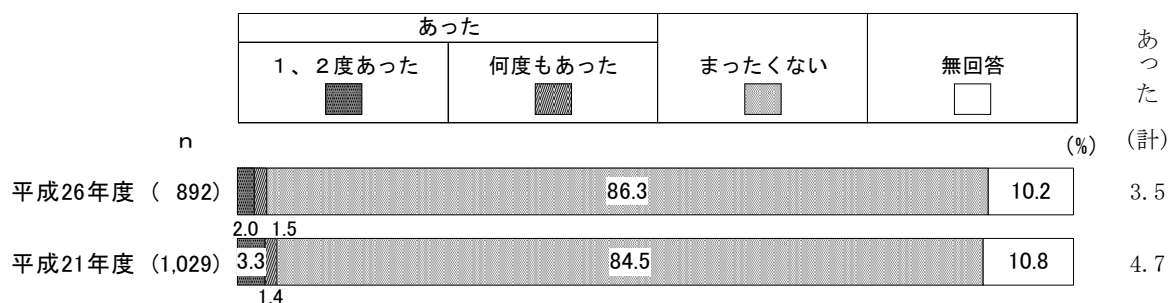
【(2) 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた】



“あなたの親族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるようなことがあった”について経年比較をみると、平成21年度調査とほぼ同様の傾向となっている。(図7-17)

図7-17 配偶者から暴力を受けた経験(経年比較)

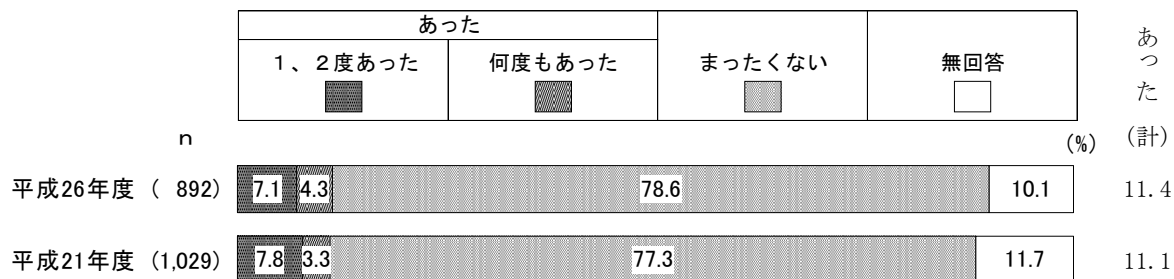
【(3) あなたの親族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるようなことがあった】



“いやがっているのに性的な行為を強要された”について経年比較をみると、平成 21 年度調査とほぼ同様の傾向となっている。(図 7-18)

図 7-18 配偶者から暴力を受けた経験（経年比較）

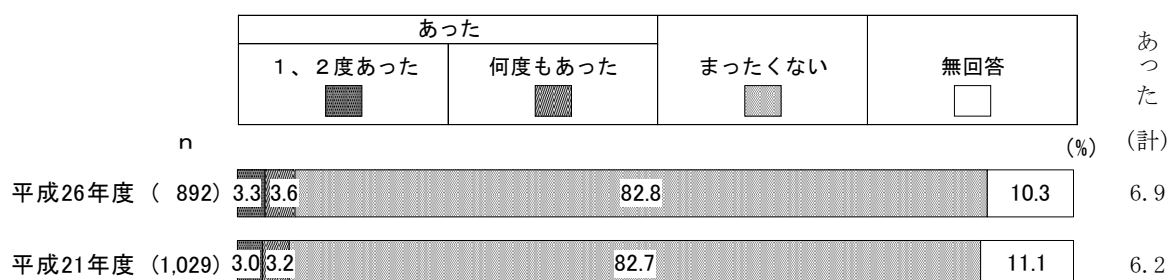
【(4) いやがっているのに性的な行為を強要された】



“あなたの自由になるお金を渡さない”について経年比較をみると、平成 21 年度調査とほぼ同様の傾向となっている。(図 7-19)

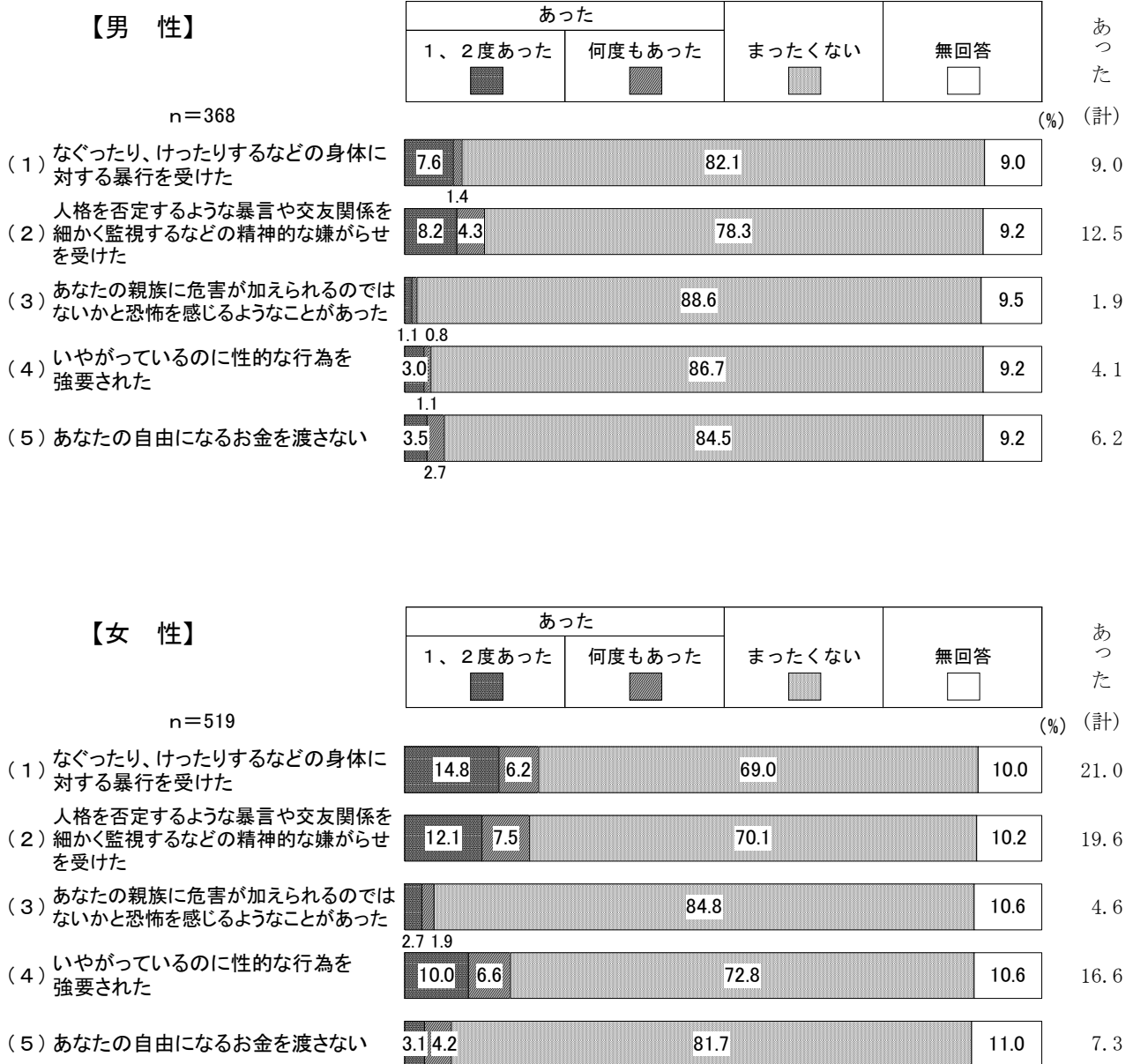
図 7-19 配偶者から暴力を受けた経験（経年比較）

【(5) あなたの自由になるお金を渡さない】



性別でみると、『あった（計）』はすべての項目で女性が男性より高く、“いやがっているのに性的な行為を強要された”では女性（16.6%）が男性（4.1%）より12.5ポイント、“なぐったり、けったりするなどの身体に対する暴行を受けた”では女性（21.0%）が男性（9.0%）より12.0ポイント、それぞれ高くなっている。（図7-20）

図7-20 配偶者から暴力を受けた経験（性別）



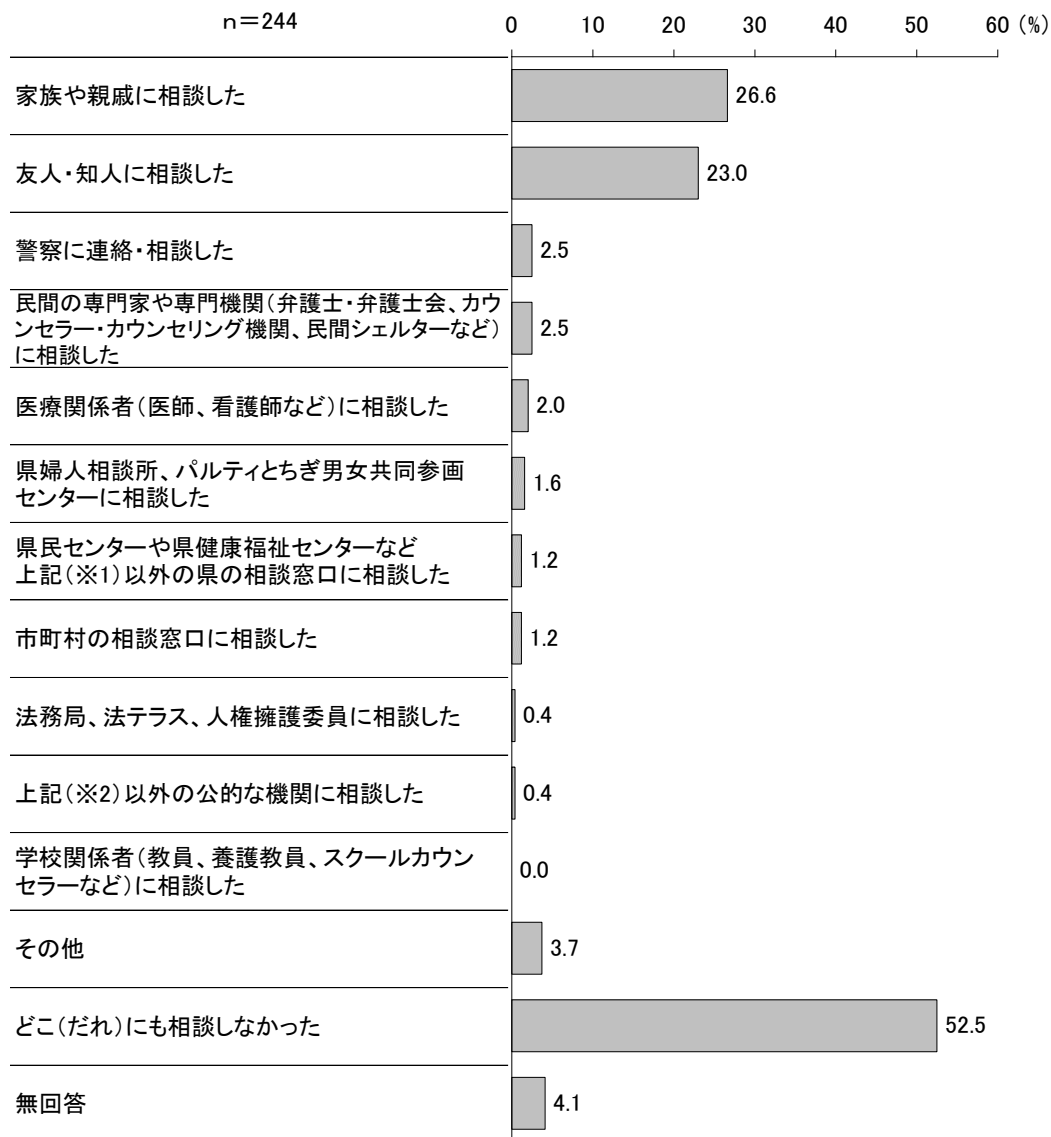
(2-1) 配偶者から受けた暴力についての相談相手

◇「どこ(だれ)にも相談しなかった」が52.5%、「家族や親戚に相談した」が26.6%

(問18. で、「1、2度あった」または「何度もあった」と1つでも回答した方に)

問18-1. あなたは、配偶者から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(あてはまるものすべてに○)

図7-21



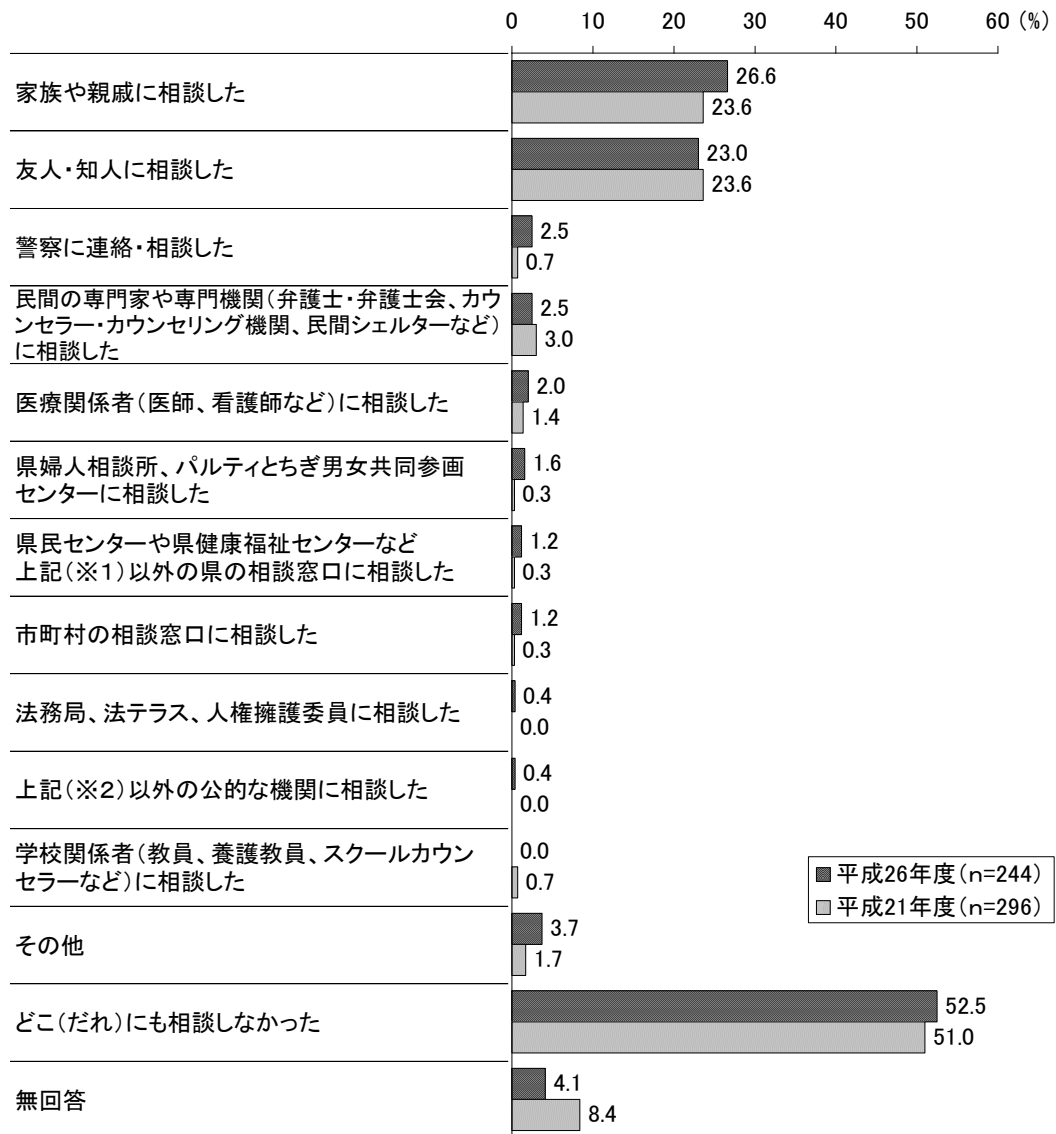
※1:「県婦人相談所、パルティとちぎ男女共同参画センター」

※2:「県婦人相談所、パルティとちぎ男女共同参画センター」「県民センターや県健康福祉センターなどの県の相談窓口」「市町村の相談窓口」「警察」「法務局、法テラス、人権擁護委員」

配偶者からの暴力が「1、2度あった」または「何度もあった」と回答した方(244人)に、受けた暴力についての相談相手を聞いたところ、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が52.5%で最も高くなっている。相談した中では「家族や親戚に相談した」が26.6%、「友人・知人に相談した」が23.0%で、この2項目が高くなっている。(図7-21)

経年比較をみると、「家族や親戚に相談した」は平成21年度調査より3.0ポイント増加している。
 (図7-22)

図7-22 配偶者から受けた暴力についての相談相手（経年比較）

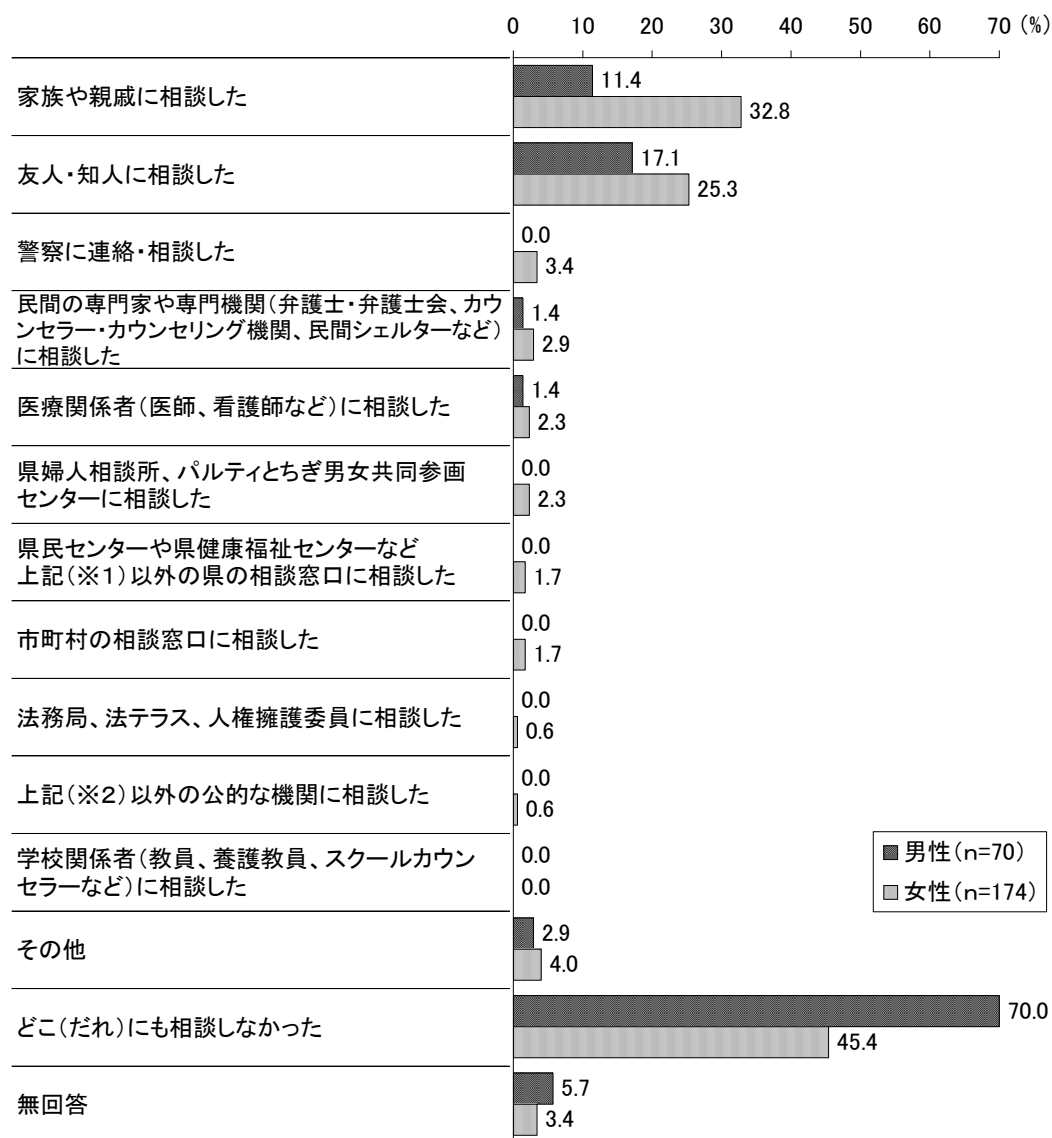


※1：「県婦人相談所、パルティとちぎ男女共同参画センター」

※2：「県婦人相談所、パルティとちぎ男女共同参画センター」「県民センターや県健康福祉センターなどの県の相談窓口」「市町村の相談窓口」「警察」「法務局、法テラス、人権擁護委員」

性別でみると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」は男性（70.0%）が女性（45.4%）より24.6ポイント高くなっている。一方、「家族や親戚に相談した」は女性（32.8%）が男性（11.4%）より21.4ポイント、「友人・知人に相談した」は女性（25.3%）が男性（17.1%）より8.2ポイント、それぞれ高くなっている。（図7-23）

図7-23 配偶者から受けた暴力についての相談相手（性別）



※1：「県婦人相談所、パルティとちぎ男女共同参画センター」

※2：「県婦人相談所、パルティとちぎ男女共同参画センター」「県民センターや県健康福祉センターなどの県の相談窓口」「市町村の相談窓口」「警察」「法務局、法テラス、人権擁護委員」

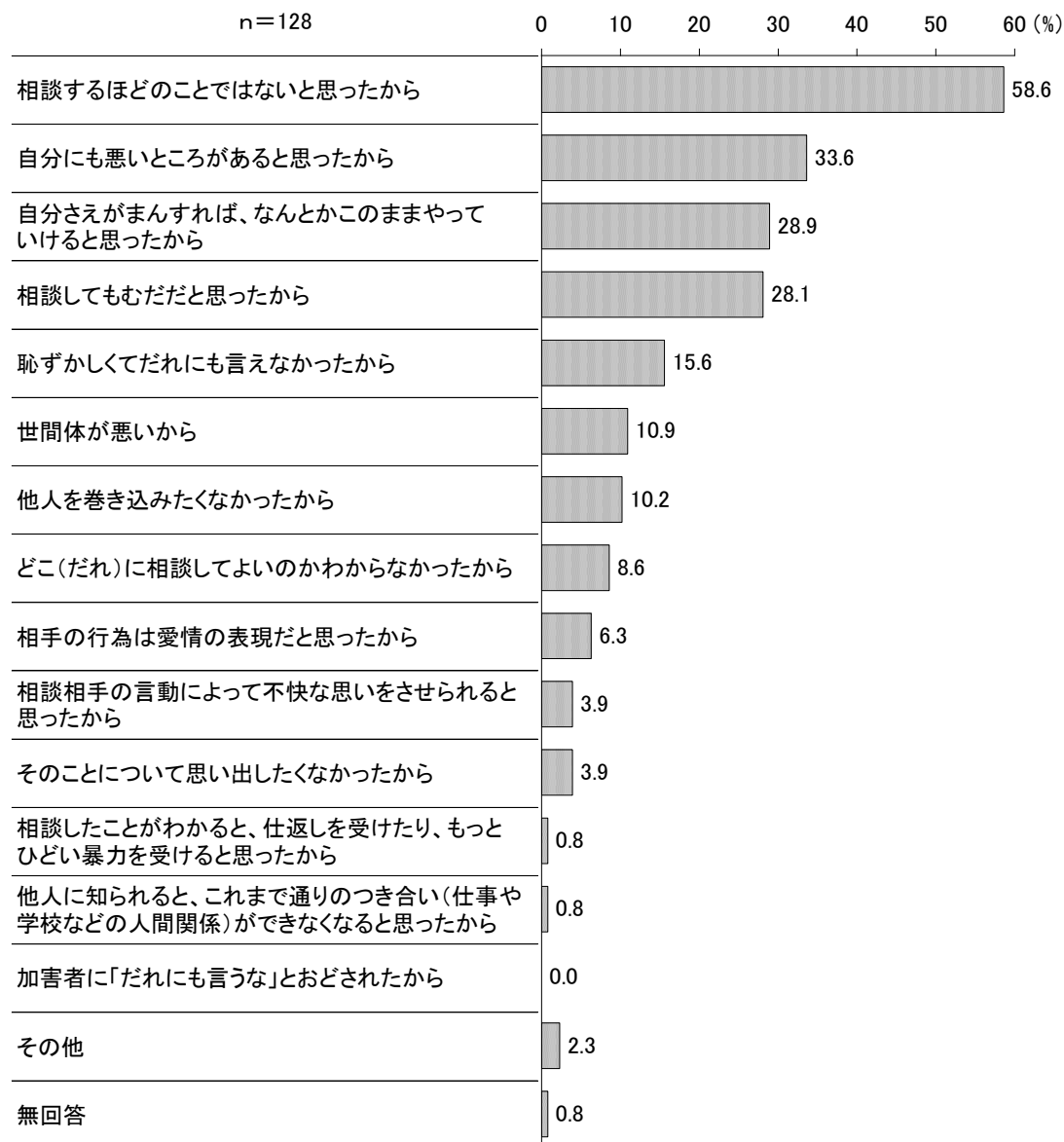
(2-2) 配偶者から受けた暴力について相談しなかった理由

◇「相談するほどのことではないと思ったから」が58.6%

(問18-1. で、「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方に)

問18-2. どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。(あてはまるものすべてに○)

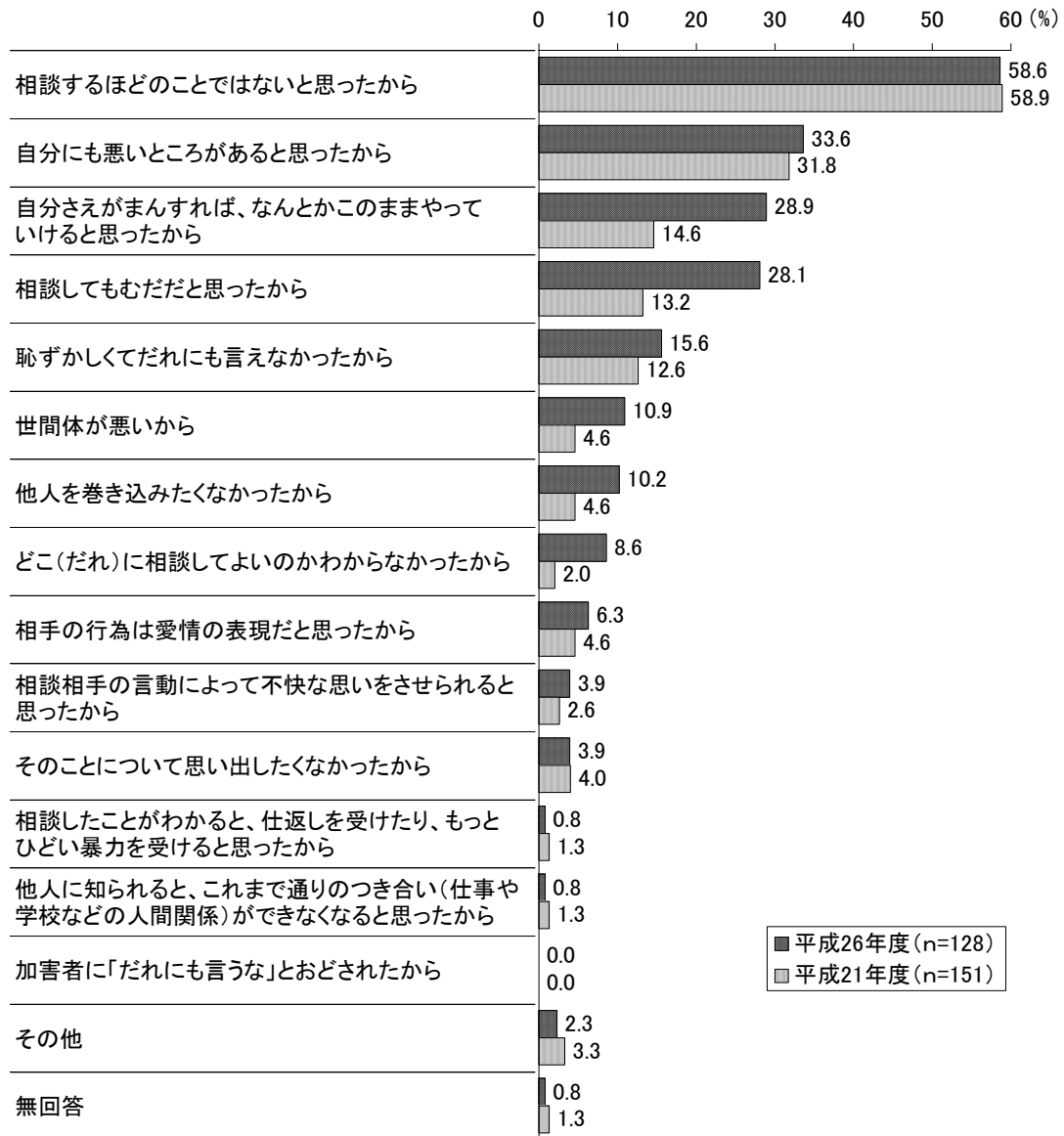
図7-24



配偶者から暴力を受けた際に「どこ(だれ)にも相談しなかった」と回答した方(128人)に、相談しなかった理由を聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が58.6%で最も高く、次いで、「自分にも悪いところがあると思ったから」(33.6%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(28.9%)、「相談してもむだだと思ったから」(28.1%)などの順となっている。(図7-24)

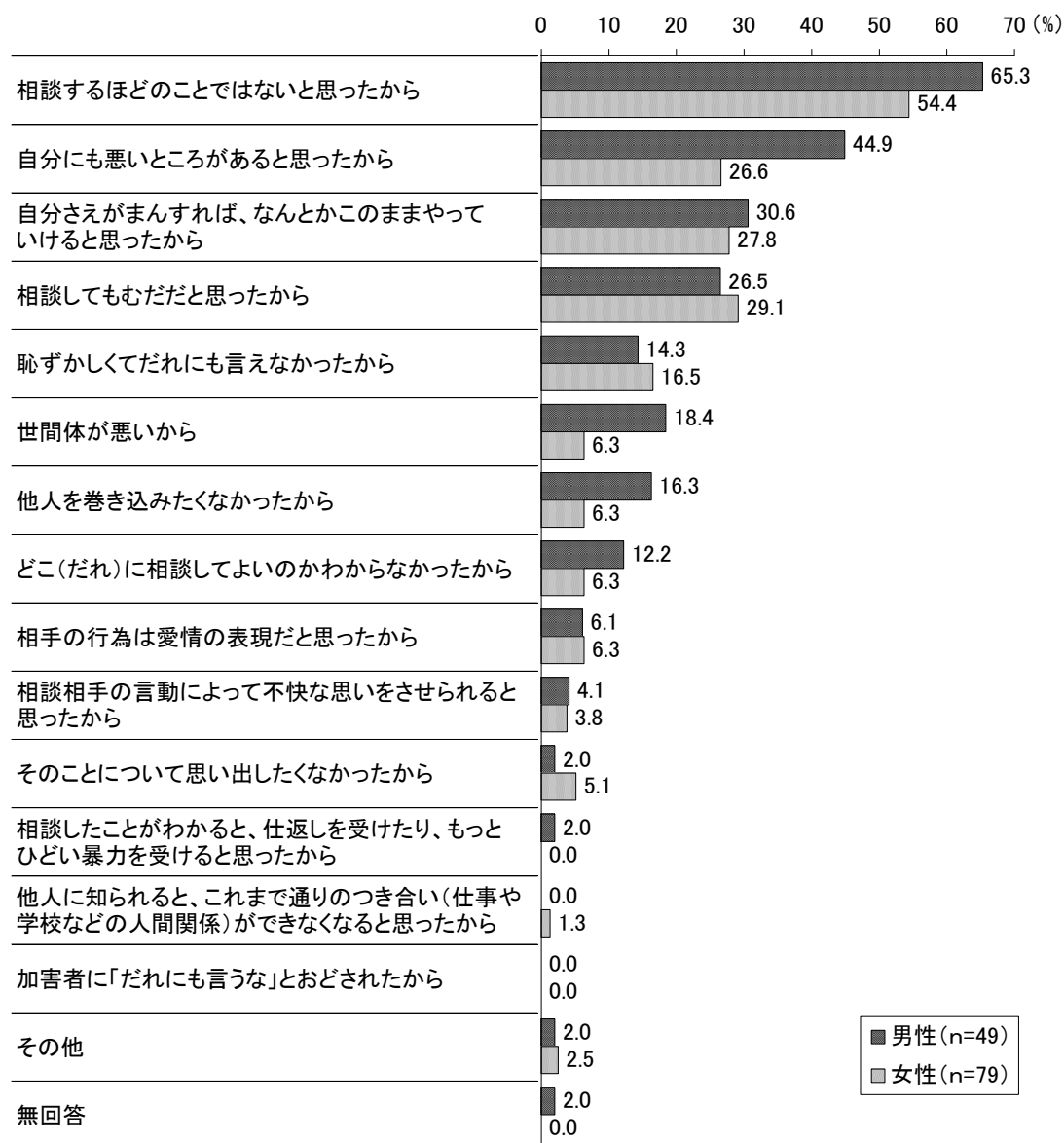
経年比較をみると、平成 21 年度調査より「相談してもむだだと思ったから」は 14.9 ポイント、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」は 14.3 ポイント、それぞれ増加している。(図 7-25)

図 7-25 配偶者から受けた暴力について相談しなかった理由（経年比較）



性別でみると、「自分にも悪いところがあると思ったから」は男性（44.9%）が女性（26.6%）より 18.3 ポイント、「世間体が悪いから」は男性（18.4%）が女性（6.3%）より 12.1 ポイント、それぞれ高くなっている。一方、「そのことについて思い出したくなかったから」は女性（5.1%）が男性（2.0%）より 3.1 ポイント高くなっている。（図 7-26）

図 7-26 配偶者から受けた暴力について相談しなかった理由（性別）

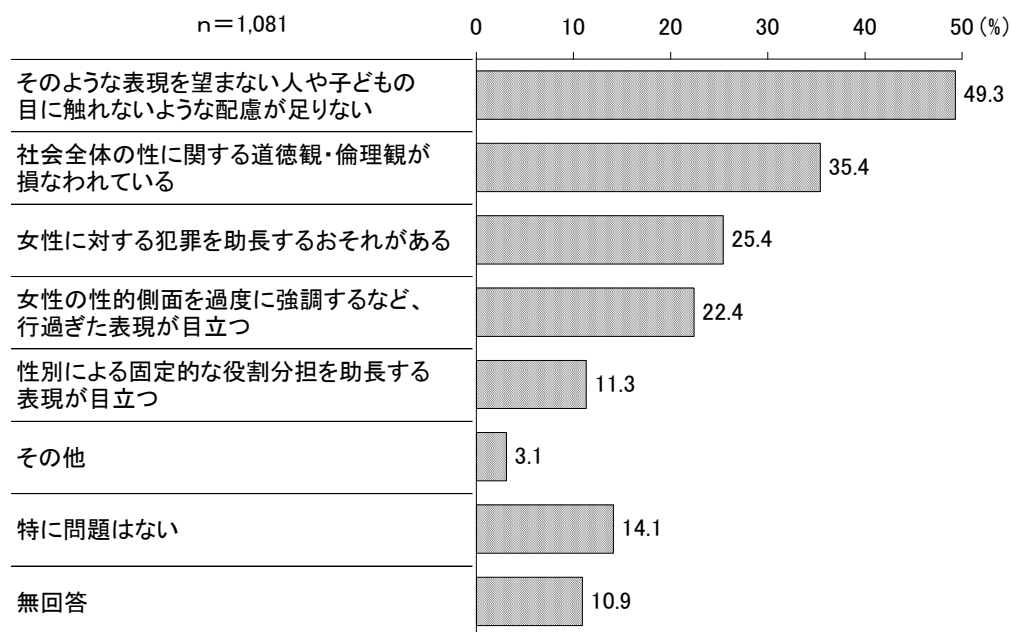


(3) メディアでの性別による固定的な役割分担表現や、女性に対する暴力や性の表現についての考え

◇「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が49.3%

問 19. テレビ、映画、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や、女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。(あてはまるものすべてに○)

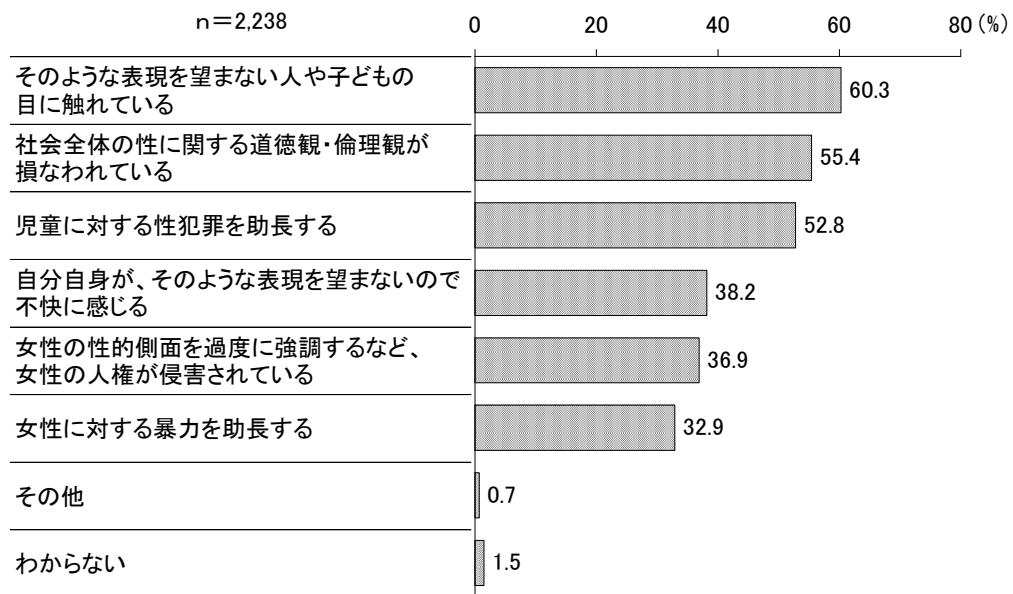
図 7-27



メディアでの性別による固定的な役割分担表現や、女性に対する暴力や性の表現について聞いたところ、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が49.3%で最も高く、次いで、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」(35.4%)、「女性に対する犯罪を助長するおそれがある」(25.4%)、「女性の性的側面を過度に強調するなど、行過ぎた表現が目立つ」(22.4%)などの順となっている。(図7-27)

内閣府調査との比較は、選択肢が異なるため内閣府調査の結果を参考までに図示する。(図7-28)

図7-28 メディアでの性別による固定的な役割分担表現や、女性に対する暴力や性の表現についての考え (内閣府調査との比較)



※内閣府調査は、「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年10月)

性別で見ると、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」は女性(52.9%)が男性(44.5%)より8.4ポイント、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」は女性(37.1%)が男性(33.6%)より3.5ポイント、それぞれ高くなっている。

(図7-29)

図7-29 メディアでの性別による固定的な役割分担表現や、女性に対する暴力や性の表現についての考え (性別)

